

未来

人権教育啓発シリーズ NO.4



人は誰もが人間らしく幸せに生きる権利をもっています。しかし、「世の中には女性と男性しかない」「男性は女性を、女性は男性を好きになるのがあたりまえ」などの決め付けた考え方や発言によって、自分を好きになれなかったり、ありのままの自分を表現できなかったりして生きづらさを感じている子どもたちがいます。今回はこの問題について考えてみましょう。

「多様な性」について考えてみよう

性について多くの人が、女性か男性の2つの性しか存在しない、異性を好きになるのが「当たり前」と思っているかもしれませんが。こうした性に関する思い込みはたくさん存在しています。

しかし実際には、心と身体の性別に違和感がある人や、同性を好きになる人や異性を好きになる人、誰かを好きになるのに性別にこだわらない人など様々な性の在り方があります。性は、**性自認**、**身体的性別**、**性的指向**など様々な側面で説明することができますが、組み合わせは一人一人異なっており、二人として同じ性の人はいません。つまり、誰もが多様な性を構成する一人なのです。

性自認や性的指向は、一生を通して揺らいだり変化したりすることもあります。日々の生活の場面で、また生き方を選択する上で「生きづらさ」や「困難さ」を感じることがないように、誰もが人権意識を高めていく必要があります。

体の性	女		男
心の性	女		男
性的指向	女		男
身体的性別	女		男

(もっと知りたい！話したい！セクシュアルマイノリティ 参考)

あなたならどこに印をつけますか？
印がつく箇所は一人一人違います。

性自認(gender identity)

自分の性をどう捉えているかのことで、「このころの性」とも呼ばれています。自分の性に違和感がない人(ハジゲンダ-)もいれば、違和感がある人(トランスジェンダ-)もいます。また、性自認がはっきりしない人もいます。

身体的性別

性染色体や内性器・外性器等で判別されます。判別の困難な人もいます。「からだの性」

性的指向(Sexual Orientation)

誰を好きになるかということ。
自認する性を基準に、異性に向かう人(ヘテロセクシュアル)や同性に向かう人(ホモセクシュアル)がいます。

「LGBT」って？ 「SOGI」って？

LGBTとは、「レズビアン」「ゲイ」「バイセクシュアル」「トランスジェンダー」の頭文字を併せた言葉です。セクシュアルマイノリティ(性的少数者)の総称として理解されることもあります。「**LGB**」は「性的指向」を、「**T**」は「性自認」を表しています。民間の研究機関の調査において、約7.6%(約13人に1人)の人が「LGBTを含むセクシュアルマイノリティ」とあるといわれています。

Lesbian(レズビアン)

「このころの性」が女性で、「好きになる性」が女性という人。

Gay(ゲイ)

「このころの性」が男性で、「好きになる性」が男性という人。

Bisexual(バイセクシュアル)

「好きになる性」が異性の場合も、同性の場合もある人。

Transgender

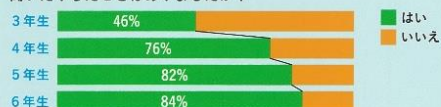
(トランスジェンダー)

「このころの性」と「身体の性」が一致していない人。

正しい知識の不足により、LGBTの人との接し方に戸惑ったり、自身がLGBTの場合自己否定につながったりしかねません。

小学校高学年の約8割はLGBTについての揶揄を聞いている

今までに「オカマ」「ホモ」「おとこおんな」という言葉を見たか聞いたか？



※横浜市内小学校3校の3～6年生902名が回答(2014年～2015年 ReBIT 独自調査)

国際連合では「LGBT」よりも、すべての人々に性的指向(Sexual Orientation)や性自認(Gender Identity)があることを表し、それを網羅する用語「**SOGI(ソギ)**」を使用しています。LGBTという言葉では多様な性のあり方を表現しきれないので、**性的指向や性自認というすべての人が共通して持っている性質に注目してセクシュアリティについて語ろう**という考え方が、SOGIという言葉の背景にはあるのです。みなさんも「性の多様性」について、自分事として考えてみませんか？